

指定校番号	28019	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	梅林小学校	校長	中西 浩二	生徒指導主事	通地 正博
-----	-------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『梅林祭』**

**取組のねらい『楽しい学校生活を送ろう』**

- ・2年生から6年生までは、「梅林祭」の取組を通して、クラスが協力し、一つのことを成しとげること  
で、新しいクラスの結びつきを深め、学校生活の楽しさを味わう。
- ・1年生は、お客さんになっているいろいろなクラスを回る活動を通して、小学校生活の楽しさを味わい、新  
しい友達と仲良くなる。
- ・たてわり班で「店」を回ることで、異学年交流を図る。

**取組の具体的内容『協力して出し物を行い、みんなで楽しもう』**

5月25日（水） 各クラスの「店」の内容提出（学年で内容が重ならないように調整）  
 6月 9日（木） 児童朝会（顔合わせ・回る順番決め）  
 5月30日～6月16日 各クラスで「店」の準備  
 6月17日（金） 梅林祭 1～3校時  
 場所 開閉会式は体育館 活動は各クラス  
 内容 たてわり班で回る（1グループ5～6人）  
 2～6年・・・「店」を出す ※店番・客を前後半で交代  
 1年生・・・客として、各クラスを回る  
 たんぽぽ学級・・・交流学級で店番に参加 客として回る



## 取組の課題・創意工夫 『クラスの結びつきを深め、新しい友達と仲良くなるよう』

### 課題

- ・異学年交流を充実させるためのたてわり班の作り方をどのようにするか。
- ・出し物の準備から当日の運営までのクラス全員での取り組み方。
- ・たくさんの「店」を回ること。

### 工夫

- ・男女均等になるように異学年のグループ（たてわり班）を作り、1年生は前後半違うメンバーの上学年と回ることを通して、たくさんの上学年と交流を行う機会を作った。
- ・各クラス、昨年度までの出し物を参考にして、自分たちで話し合いを行い、何の「店」を出すのかを決めた。また、「店」の名前書きやポスター作り、「店」の準備、当日の店番などをクラス全員で分担して行うようにした。
- ・短時間に回るために、「店」の出し物を1人ずつではなく、大人数でできるような出し物を工夫した。

## 取組の成果（効果） 『楽しく活動できた』

### 児童の感想より抜粋

- ・グループのみんながやさしくしてくれたので、うれしかった。
- ・5、6年生が先に行かせてくれたり、教えてくれたりしたので、楽しかった。
- ・お店を出すための準備はクラスみんなで役割分担をして、協力してできた。
- ・店を出る時に、「楽しかった」と言ってくれる人がいてうれしかったし、やったかいがあるなど思った。
- ・同じことを一緒にすることで、違う学年の人たちと仲良くなれた。

12月に行った学校評価アンケートでも、仲間と共に楽しく活動できたという項目は90%、思いやりの心を言葉や行動で伝えるという項目でも92%の児童ができたと評価している。「梅林祭」の活動を通して、学級への所属感や思いやりの心が育ってきていると思われる。

## 今後の展開 『継続した取組』

- ・「梅林祭」だけではなく、月に1回「梅林遊ぼうデー」を設け、昼休憩を長くして全員遊びを行うことにしている。また、クラス対抗の綱引き大会や長縄跳び大会が計画されており、当日だけではなく、練習からクラス全員で取り組んでいき、クラスの一体感を味わわせるようにさせていく。
- ・登校班では、5・6年生が班長、副班長になり、下の学年が安全に登校できるように指導させるとともに、下の学年も班長、副班長の指示に従うようにさせている。また、児童朝会でのたてわり班活動でも、他の学年に対しても、思いやりのある行動をするように指導していく。

## 他校へのアドバイス 『継続させていく』

- ・クラスの絆を深めていくための活動は、日々の活動の中でも取り入れられていると思われる。それだけではなく、特別に仕組んでいくためには、他の行事と重ね合わせて考えるなど、計画的に取り入れていくことが大切である。また、子どもたちに目的意識を持たせながら、活動させていくことも重要である。
- ・梅林小は登校班だけではなく、遠足、梅林祭、児童朝会など年間を通して異学年交流を継続して仕組んでいる。継続することによって、他の学年に対して、思いやりの心も育ってきていると考えられる。